

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成25年度第4四半期（平成26年1月～3月）

1. 治安情勢及び一般犯罪情勢

(1) 治安情勢

ア 2月12日、マハーラーシュトラ州地域政党「Maharashtra Navnirman Sena」（MNS）が高速道路料金徴収に対する抗議活動として「rasta roko」と呼ばれる道路封鎖示威行動を同州高速道路料金所及びムンバイ市内主要幹線である「Rajiv Gandhi Sea Link」周辺で行った。

治安当局は事前に大規模な警備体制を展開し、党代表者をはじめ数百人を拘束し事態を收拾、在留邦人等に被害は及ばなかった。

イ 3月11日、チャッティースガル州南部ジラム・ガティ地区に駐屯していたCRPF（中央予備警察部隊）がナクサライト武装勢力の攻撃を受けた。

武装勢力は地雷等爆発物を使用し、治安部隊と銃撃戦となった。戦闘は約3時間続き、CRPFの兵士16人、民間人1人が死亡した。

現場付近は2013年5月25日、 कांग्रेस党指導者らが同じくナクサライトの襲撃を受け、多くの死傷者を出した場所であり、治安部隊に犠牲者が出たことは近年では見られないことである。

(2) 一般犯罪

1月から3月にかけて、インド国内に滞在中の邦人旅行者から、「ガイドをしてやるというて連れて行かれた場所で法外な報酬を要求された」、「宝石詐欺の被害に遭った」といった被害申告・相談が当館宛てに寄せられた。

後者については、被害額が数百万円と高額なものとなっている。事案の概要については、宝石商と名乗る複数のインド人が流暢な日本語で、「日本で宝石展示会をするが、貴金属の国外持ち出しは規制が厳しい。あなたが国際郵便で送ってくれないか」と依頼するもので、承諾し郵送すると「税関のチェックが入った。密輸を疑われている。実際に貴金属を購入した事実をつくるため、クレジットカードで金を買ってほしい。」などと言葉巧みに高額を支払いをさせられるといった手口である。

被害に遭わないためにも、親しげに声をかけてくる人物を安易に信用しない、またついていけない、飲食物を勧められても絶対に口にしないといった毅然とした対応が必要である。

2. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

邦人被害の事件は認知していない。

(2) 強盗

邦人被害の事件は認知していない。

(3) 強姦

邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、テロ・爆弾事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、テロ・爆弾事件の発生はなかった。

5. 対日感情

対日感情は良好である。